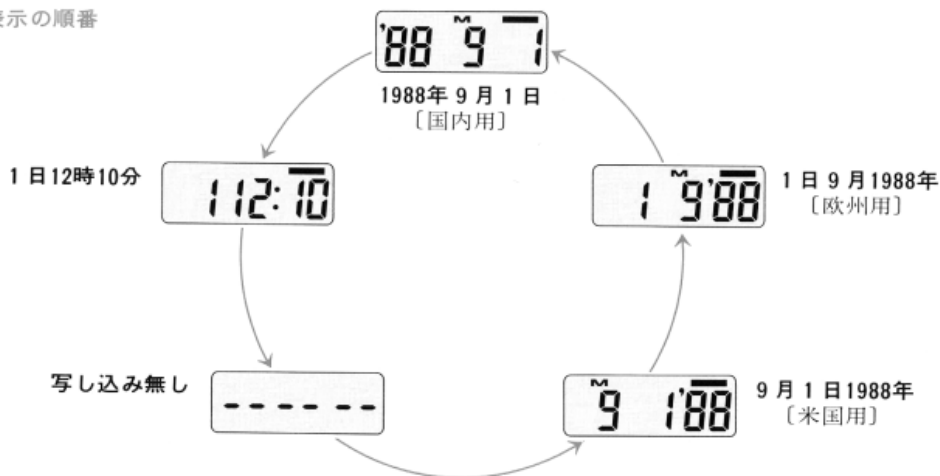




●注 データの写る部分に白や黄色の物が来ると、写し込まれたデータが見えにくくなりますので、構図に注意してください。

* このクォーツデイトは、工場出荷時に、おおむね正しい時間に合わせていますが、調整や電池を交換するときは58～60ページをご覧ください。

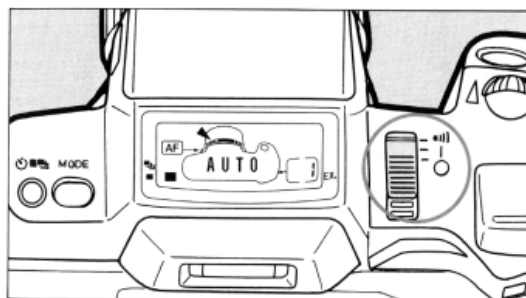
* 2019年までのカレンダーが記憶されています。

これで準備はおしまいです。⇒

基本撮影編



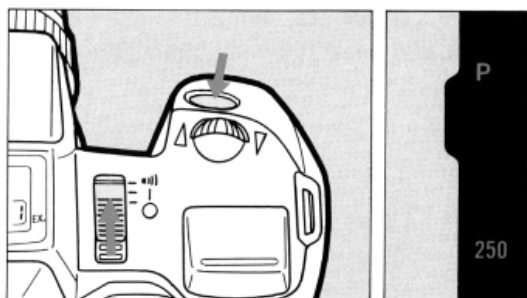
1. 電源スイッチを操作します



- 「入」 —  [ピントが合ったときやセルフタイマーを使ったときに「ピッピッ」と電子音で知らせます。]
- 「切」 —  [使わないときは、必ずこの位置にします。]

[文中では、電源スイッチをスイッチと略します。]

2. シャッターボタンを操作します



スイッチを  にし、図のようにシャッターボタンを軽く押している間は、ファインダー内に露出計などの情報が表示され、さらに押し込むとシャッターが切れます。

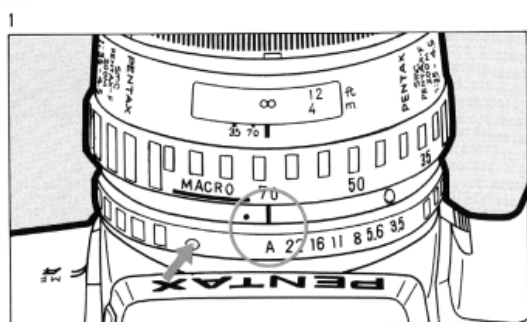
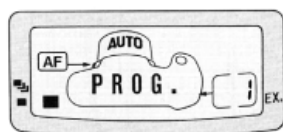
* 指を離すと、約 5 秒後に表示が消えます。

* レンズキャップは必ず外して、明るい方向に向けてシャッターを切ってください。

13 ●

3. プログラム自動露出に合わせます

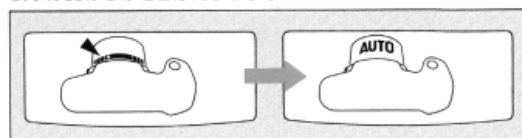
プログラム自動露出は、絞りとシャッター速度が自動的に組み合わせられるので、撮影が簡単に楽しめます。



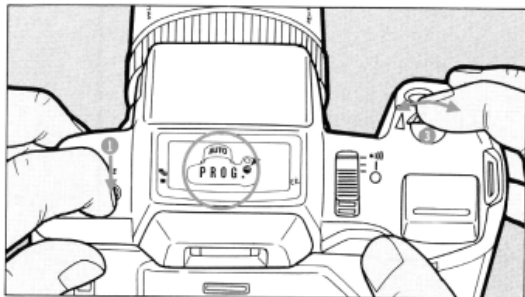
1. 図のように、レンズのボタンを押したまま、絞りリングを **A** にします。

* **A** にすると、絞りリングが固定されます。

表示が変わるのをおぼえましょう

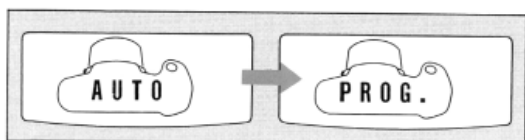


2

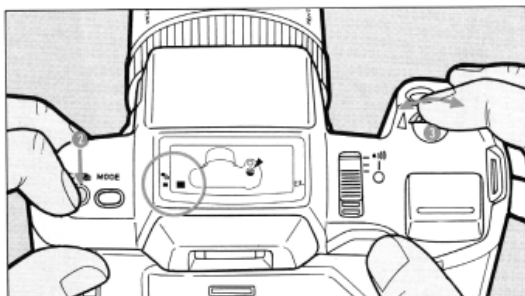


2. 図のように、①の灰色の **PROG.** ボタンを押したまま、③の **MODE** ダイヤルを右か左に一回づつ動かして **P R O G .** の表示を出します。

* **MODE** ダイヤルは右か左に押したままにすると早送りします。



4. **1コマ撮影** にします



図のように、②の **1コマ撮影** ボタンを押したまま、③の **MODE** ダイヤルを動かして **1コマ撮影** 表示にします。

1コマ撮影

〔シャッターボタンを押すたびに、1コマずつ撮影されます。〕

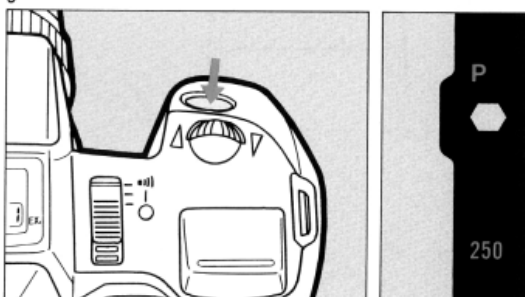
連続撮影

〔シャッターボタンを押し続けると、連続撮影になります。〕

セルフタイマー撮影 [50ページ]

〔シャッターボタンを押すと、タイマーが働き約12秒後に撮影されます。〕

3



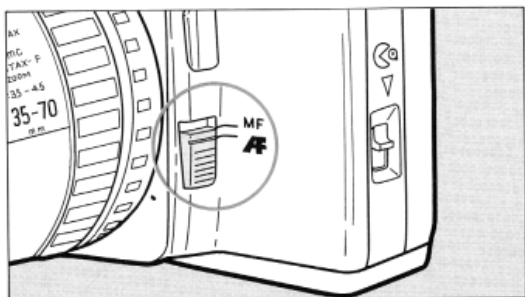
3. ファインダーをのぞきながら、シャッターボタンを軽く押し、ファインダー内の右上に **P** とシャッター速度の表示が出ることを確認します。

* 緑色の2000～60[1/2000～1/60秒]のランプが光っていれば撮影できます。30～LT[1/30、1/15秒以下]のシャッター速度[橙色]になったときは、手ぶれの危険がありますので、ストロボや三脚を使つての撮影をおすすめします。

* **電池** が点滅しているときは、内蔵ストロボ [28ページ] を使用します。

15●

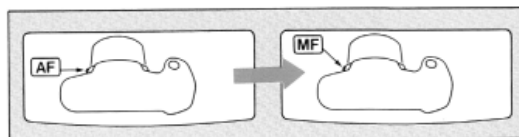
5. **AF** [オートフォーカス] に合わせます



図のように、レバーを赤色の **AF** 側にします。

AF [レンズが自動的に動いて、ピントを合わせる「オートフォーカス」です。]

MF [手動でピントを合わせる「マニュアルフォーカス」です。46ページ]



6. カメラの構え方・カメラぶれの防ぎ方

●横位置

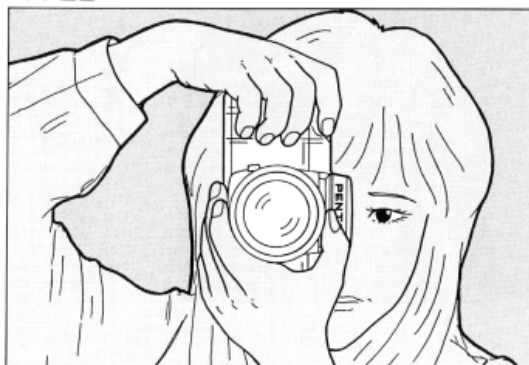


撮影するときは、カメラの構え方が大切です。

※シャッターボタンは息を止めて指先で静かに押します。〔強く押すとカメラぶれしやすくなります。〕

※木や建物・テーブルなどを利用して、からだやカメラを安定させる方法などを利用します。

●タテ位置

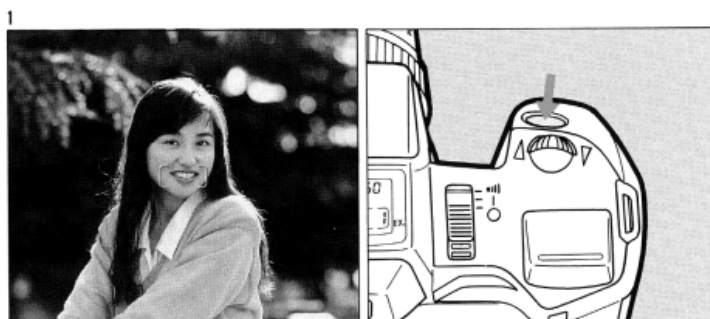


※1/30以下の低速シャッターや超望遠レンズを使用するときは三脚と、別売りの「ケーブルスイッチF」をご利用ください。

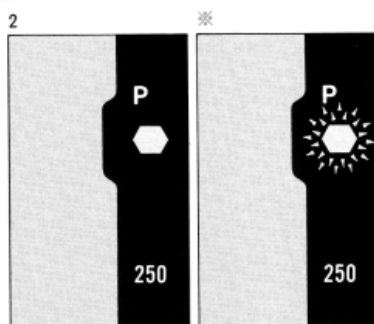
※特に望遠レンズで三脚を使用するときは、カメラやレンズの総重量より重い三脚を使うとカメラぶれ防止に効果があります。

17●

7. ピントを合わせます

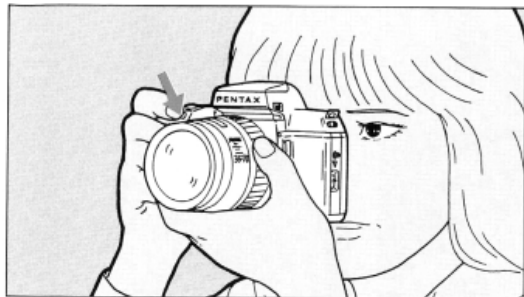


1. 写真のように、AFフレーム [C] の所にピン
トを合わせたい物を持ってきて、シャッターボ
タンを軽く押します。



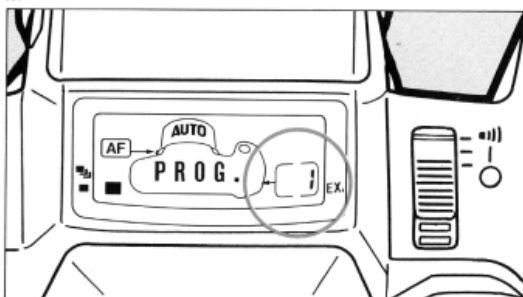
2. ピントが合うと、図のようにファインダーの中
の [C] が緑色に光って、「ピッピッ」という電子
音が聞こえます。

※ [C] が点滅を続けているときは、撮影する距離
が近すぎたり、「オートフォーカスの苦手な被写
体[45ページ]」でピント合わせができないとき
です。



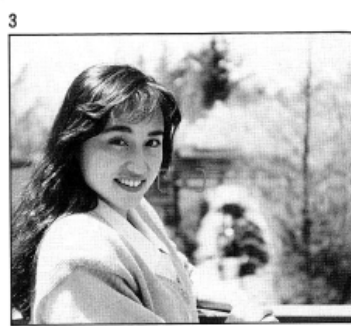
3. さらにシャッターボタンを押し込むと撮影ができます。

- 注 ピントが合わないとシャッターは切れません。
- 注 作動中はレンズの距離リングに手をかけたり、回転を妨げたりしないでください。
- 注 一度合うとピントが固定されますから、別のものに合わせ直すときは、シャッターボタンから指を離し、押し直します。



※ 図のように、**EX.**のところに表示される数字は撮影枚数で、シャッターを切るごとに枚数が足されます。

8. フォーカスロック撮影を覚えましょう

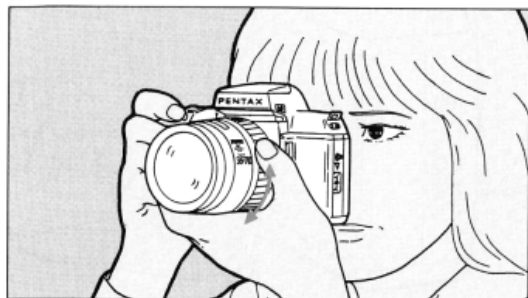


構図上、ピントを合わせたいものから **[C]** が外れているときは、次のようにフォーカスロック撮影をします。

＊シャッターボタンを軽く押し、**[O]** が光っている間はフォーカスロックされ、指を離すと解除します。何回でも繰り返すことができます。

1. **[C]** が外れたままで撮影をすると、写真のように後ろの方にピントが合ってしまいます。
2. ピントを合わせたい物に **[C]** を向けて、シャッターボタンを軽く押し続け、**[O]** を光らせたままにしておきます。〔ピントを記憶させる操作です。〕
3. シャッターボタンを軽く押し続け、元の構図に戻して、さらにシャッターボタンを押し込んで撮影をします。

9. ズームレンズを操作します



ズームリングを回すと、写したいものが大きくなったり、小さくなったりしますから、好みの位置に合わせます。

*ズームリングの数字が小さいときは、写る範囲が広い広角側に、大きいときは遠いものを大きく写す望遠側になります。

●広角〔35mm〕

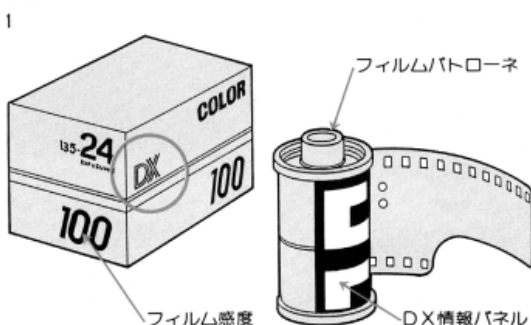


●望遠〔70mm〕



21●

10. DX フィルムを入れます

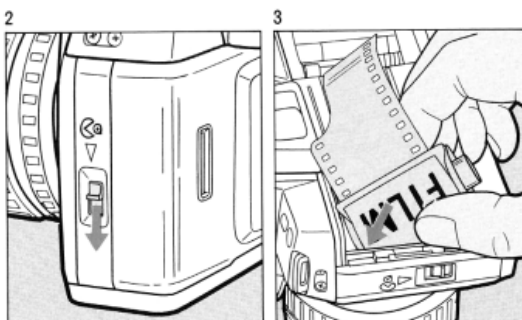


1. 図のように、**DX** マークの付いているフィルムを用意します。

[S F 7 は ISO 25～5000 まで使えます。]

* **DX** フィルムは、感度が自動的にカメラにセットされるフィルムです。

* **DX** 以外のフィルムは「ISO 100」になります。

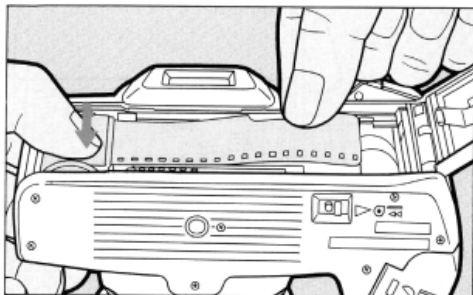


2. 図のレバーを押し下げて、裏ぶたを開けます。

3. 図のように、パトローネの凸部側を下にして、上側から先に入れます。

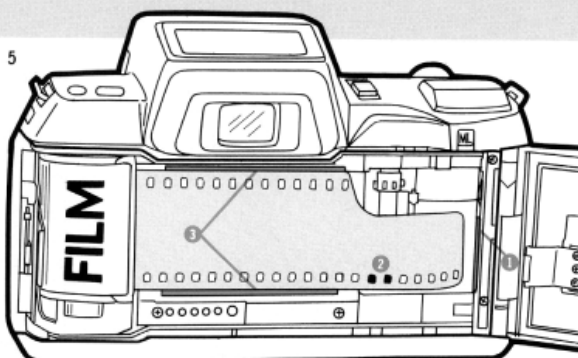
④ 初めてカメラにフィルムを入れるときは、裏ぶたを開き、内側にある防傷カバーを取り外して捨ててください。

4



4. 図のように、左手でパトローネを押さえながらフィルムを引き出します。

5



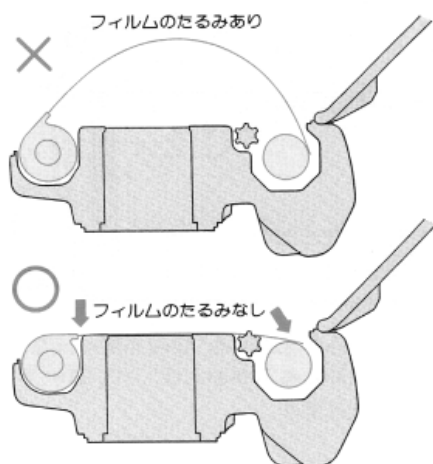
5. 図のように、フィルムの先端部を「①の先端マーク」に合わせ、フィルムにたるみがあれば、パトローネに戻してたるみをとります。

注 シャッター幕は精度を出すために、非常に薄い幕でできています。手やフィルムの先端部などが絶対に触れないように注意してください。

注 D X の情報ピンは、フィルム感度を読み取る接点です。キズ・汚れ・ゴミを付けないようにしてください。

注 フィルムの穴[パーフォレーション]を②の歯に合わせ、③のガイドレール[赤線]の間にフィルムが入っていることを確認してください。

23●



* フィルムはたるみがないように入れてください。

* フィルムは先端が極端に折れ曲っているものは、まっすぐに直すか、曲った部分を切り取ります。

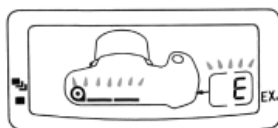
6



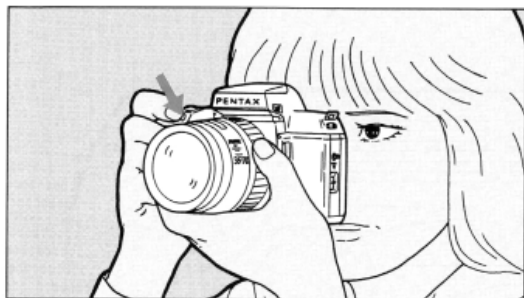
6. 裏ぶたを閉めると、自動的に 1 枚目まで巻き上げられますから、[1]が表示されることを確認します。

注  マークが出ていることを確認します。

注  と [E] が点滅しているときは、フィルムが正しく入っていないので、フィルムを入れ直します。



11. 撮影をします

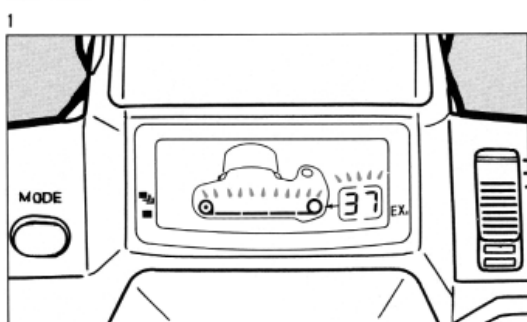


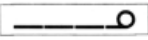
シャッターボタンを静かに押し込んで、撮影をします。撮影をすると、1コマずつ自動的に巻き上げられます。

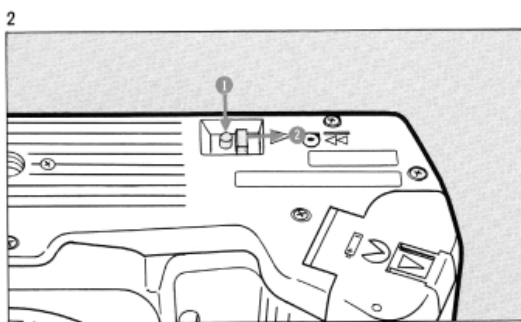


25 ●

12. フィルムを巻き戻し、取り出します

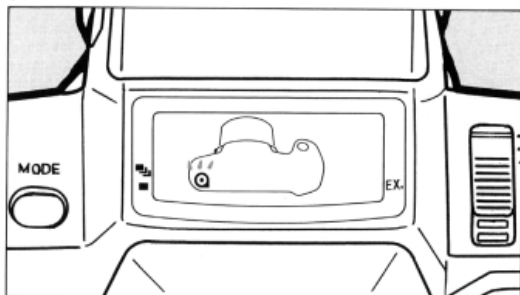


1. フィルムの最後まで撮ると、 と **EX.** の撮影枚数の表示が点滅を続けます。



2. 図のように、①のボタンを押したまま、②のレバーを  側の  マークの方に「カチッ」と止まるまで動かすとフィルムが巻き戻されます。[撮影枚数の表示も減っていきます。]

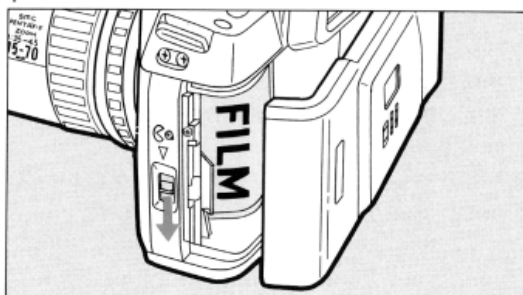
3



3. 巻き戻しが終了すると  が点滅し、**EX.** の撮影枚数の表示が消えます。

* 巻き戻しは、24枚撮りフィルムで約20秒です。

4



4. 裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。
カメラを使わないときは、スイッチを必ず  にして電源を切っておきます。

- 注 フィルム巻き戻し終了の  マーク点滅を確認してから裏ぶたを開けてください。
- 注 フィルムの規定枚数以上の撮影をすると、最後のコマは現像所でカットされる場合があります。

27 ●

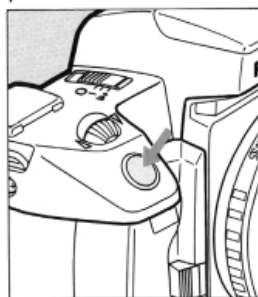
13. 内蔵ストロボで撮影します

1. プログラムストロボで使います

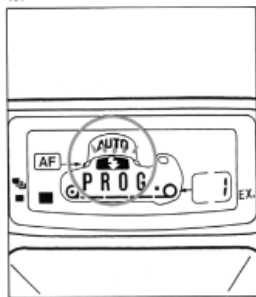
プログラムストロボは、周りが暗いときや逆光のときなどに、周りの明るさに合わせて、シャッター速度と絞りが自動的に組み合わされ、簡単にストロボ撮影ができます。

使用できるレンズは、接写撮影用のマクロレンズを除く、35mmから210mmまでのレンズです。

1



※

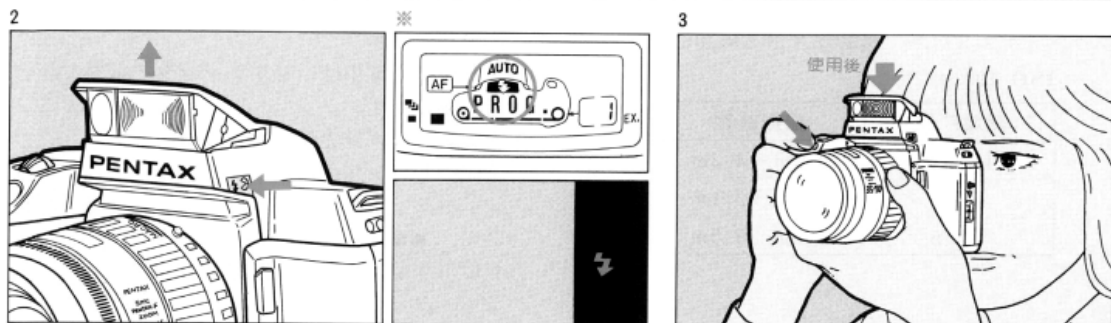


1. プログラム自動露出にし、シャッターボタンを軽く押します。

※周りが暗いときや逆光のときは  が点滅し、ファインダー内にも  が点滅しますので、ストロボをご使用ください。[ と  は、ストロボをお使いになることを S F 7 がお勧めする「ストロボお勧め表示」です。]

* シャッター優先自動露出 [38ページ] でもプログラムストロボが使え、逆光のときは  と  で「ストロボお勧め表示」が点滅します。





2. シャッターボタンから指を離し、黄色の  ボタンを押して、ストロボを上飛び出させます。

※充電が自動的に始まり、充電が終わると、 が表示されます。また、シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内にも  が光ります。
[充電時間は約4秒です。]

3. さらにシャッターボタンを押して、ストロボ撮影をします。

③撮影が終わったときや撮影をしないときは電池を無駄にしないように、必ずストロボを収納してください。

29 ●

プログラムストロボで撮影ができる範囲の目安
ISO 100 のとき

開放F値	撮影範囲
F1.4～2.8	0.9m～4.3m
F3.5	0.7m～3.4m
F4.5	0.7m～2.6m

④ストロボが使える距離〔フィルムの位置から撮影したいものまでの距離〕は、上表のように、ご使用のレンズの開放絞り値〔開放F値〕により変化しますからご注意ください。

【参考】開放F値の読み方

ご使用レンズを見て、例えば「smc PENTAX-F ZOOM 1:3.5-4.5 35-70」となっていたら、35mmのときF3.5で70mmのときにはF4.5の開放F値を持ったレンズということを表しています。

ご使用上の注意

- ①ストロボ充電中は、必ずシャッターボタンから指を離します。
- ②内蔵ストロボ発光禁止警告について
下記のFレンズのときは、充電が完了してから、シャッターボタンを軽く押すと、安全機構が働いて、やファインダー内に  が点滅し、ストロボが使えないことを警告します。
シャッターを切ってもストロボの発光が中止され、自動的に一般撮影に切り替わります。

- 35mm未満のレンズ
- 210mm以上のレンズ
- マクロレンズ

これは、画面の四隅が暗くなるようなケラレが出たり、レンズの本体がストロボの光路を遮って、画面下部に半円形のケラレが出たりするためです。この機構は、Fレンズ〔レンズにsmc PENTAX-Fという記号で表示されています〕に組み込まれていますが、他のレンズでは警告が出ませんから、お使いになる場合には、充分にご注意ください。

③目が赤く写るとき

一般に「赤目現象」と言われ、周りが暗いと瞳孔が開くため、網膜にストロボ光が反射して発生する現象です。発生するかどうかは個人差もあるようですが、完全に防ぐことはできませんので、人物を撮影される場合には、周りを明るくして、瞳孔を閉じらせる方向に持って行ったり、ズームレンズでしたら広角側にして近距離で撮影するなどの方法を利用してください。

2.手動絞りで使うとき

ここの内容は「いろいろな機能の操作編」をお読みいただいた後にご覧ください。また、30ページの「ご使用上の注意」も改めてお読みください。

ピントを深く合わせたいときなどに、ご自分で絞りを調節して使うことができます。

この場合は、絞り優先自動露出[40ページ]かマニュアル露出[42ページ]にして、絞りを手動にして使います。

「ストロボお勤め表示」が出るとき

	周りが暗い	逆光
絞り優先自動露出	○	○
マニュアル露出	×	○

使用する絞りから、ストロボでの撮影範囲の目安を計算します。

遠距離側の目安 $GN \div \text{使用絞り}$
 近距離側の目安 $\text{遠距離側目安} \div 5$
 [0.7m以下の近距離では使えません。]

※GN=ガイドナンバー

31●

また、距離が先にわかっているときは、撮影距離から使用する絞りを計算します。

$GN \div \text{撮影距離} = \text{使用できる絞り}$

*計算で出た数字が例えば「3」というように「4」「2.8」のいずれでもないときは、一般的に数字の小さい方の絞り「2.8」に合わせます。

なお、GNは使用するフィルム感度〔ISO〕により下の表のようになります。

ISO 25 → GN 6	ISO 200 → GN17
ISO 50 → GN 8.5	ISO 400 → GN24
ISO 100 → GN12	

ここで、ISO 100のフィルムを、絞りF3.5で使うときの操作をしてみましょう。

- 1.レンズの絞りをF3.5に合わせます。
- 2.ストロボ撮影の撮影範囲を計算します。

$$GN12 \div F3.5 = 3.4m$$

$$3.4m \div 5 = 0.68m \rightarrow 0.7m$$

- 3.3.4mから0.7mの範囲でストロボ撮影をします。

④ 近いものと遠いものを一緒に撮影するときに、遠い方に絞りを合わせますと、近いものに余計に光が当たることになりまますから白っぽく〔露出オーバー〕なることがあります。